

## 閉鎖性水域の水質改善に係る連携方策の検討に関する調査研究

調査研究年度

2010年度

健全な水環境の構築

### (目 的)

本調査は、関連部局が連携した汚濁負荷削減方策として、第二期水環境改善緊急行動計画および東京湾再生行動計画の進捗状況等について取りまとめを行った。

また、都道府県構想の見直し等による下水道計画区域の増減を踏まえた汚濁負荷算定手法を検討し、流域単位で最適な汚濁負荷削減方策の立案手法について検討した。

### (結 果)

#### (1) 水質改善対策の進捗状況管理手法に関する検討

第二期水環境改善緊急行動計画の対象河川について、水質改善対策の実施状況のフォローアップを目的として、関係機関に対し、以下のアンケート調査を実施した。

- 「清流ルネッサンスⅡの進捗状況及び今後の展開」
- 「目標達成に向けた検討事項及びスケジュール」

アンケート結果を集計し、対策の概要・進捗状況・事例等についてデータベース化を行い、検索等が可能なシステムを作成した。

#### (2) 閉鎖性水域の水質改善に向け関連機関が連携した取り組みに関する検討

東京湾再生推進会議陸域対策分科会において設定された汚濁負荷削減目標を踏まえ、関連部局の汚濁負荷削減対策の取り組み状況等についてアンケート調査を実施し、平成21年度および平成22年度の汚濁負荷削減状況の整理を行った。その結果をもとに汚濁負荷削減目標の達成状況を評価した。また、東京湾再生推進会議陸域分科会の会議資料の作成及びとりまとめを行った。

東京湾への陸域汚濁負荷量を算定した結果、平成21年度、22年度ともに24年度に向けて汚濁負荷量の削減が進んでいることが明らかになった。

しかしながら、COD、T-N、T-Pのいずれの項目でも、平成24年度の汚濁負荷削減の目標量を達成するには、これまでの以上の汚濁負荷削減対策への取り組みが必要であると考えられる。

#### (3) 関連部局が連携した汚濁負荷削減量最適化手法の検討

現行の流域別下水道整備総合計画と比較して、現況や将来の人口・原単位が大きく異なる場合における汚濁負荷算定手法を検討し、流域における環境基準達成のための最適案を立案する手法についての検討を行い、最適化手法を選定するための検討フローを作成した。(図-1)

検討手順は以下のとおりである。

- ① 基本計画の確認
- ② 将来フレームの検証・見直し
- ③ 汚濁負荷量の算出
- ④ 汚濁負荷削減量の最適化  
→関連部局（河川・環境ほか）との連携方策の検討
- ⑤ 計画の妥当性検証

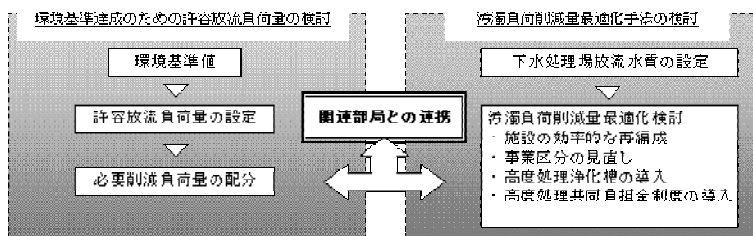


図-1 関連部局が連携した汚濁負荷削減量最適化手法の検討

国土交通省都市・地域整備局下水道部からの受託研究

問い合わせ先：研究第一部 森田 弘昭，松葉 秀樹，小峰 英明，山賀 秀昭【03-5228-6597】

キーワード

閉鎖性水域，汚濁負荷量，清流ルネッサンス，東京湾再生行動計画